

国語

I

出典

近藤和都『機動戦士ガンダム』と（再）放送の文化史（大塚英志編『運動としての大衆文化——協働・ファン・文化工作』水声社）

解答

- 問 1 1 | ①
- 2 | ④
- 3 | ②
- 4 | ②
- 5 | ①
- 問 2 a | ③
- b | ①
- c | ⑥
- d | ④
- e | ⑤

- 問 3 ④
- 問 4 ①
- 問 5 ④
- 問 6 6 | ④
- 7 | ④
- 問 7 I | ④
- II | ①
- III | ②
- 問 8 ①
- 問 9 ⑤
- 問 10 13 | ③
- 14 | ①
- 15 | ⑨
- 16 | ⑧
- 17 | ⑤
- 18 | ⑩
- 19 | ②
- 問 11 ⑤

問3 直前の「日曜朝の時間帯はスーパー戦隊もの、変身ヒーローもの、：特定のジャンルと結びついた形で編成」「継続して同ジャンルの新番組が始まる」から考える。ということは、別のジャンルの新番組が始まることは少ないと予想できる。

問4 直後の「対して福岡を主エリアとする九州朝日放送は、：二度、再放送を行っている」から考える。「二度、再放送」が行われたことによって、「福岡県の人々」が「最も『ガンダム』の視聴機会が豊か」だったことに「対して」、再放送の時期が遅れた大都市圏の人々の『ガンダム』の視聴機会はどうかと考えればよい。

問5 直後の段落以降で「周縁のアニメファンに：時間性を意味づける三つの契機」について説明している。これらによって「周縁にいる人々には時差への意識をもたらす。そして：独特な言説実践を行った」とあるので、その後の「長崎県にもいよいよ」とある投稿に着目する。この投稿者は、自分が「ガンダム」を視聴できていないときも、視聴しているファンの投稿を楽しく読んでいたと読み取れるので、④が正解。③の「放送局を批判」はファンとして自然な反応であり、「独特な意味づけ」とはいえない。⑤は主語が「中心に置かれた人々」なので、不適。

問7 I、第十四段落最後に「その番組を視聴できた人々のあいだに『あの時』としての同時性の感覚を育む」とある。『ガンダム』の最終回放送日は「一九八〇年一月二六日」、この直後の感想八編の趣旨である。

II、「特に放送局が少ない地域の視聴者：自身の視聴可能性が限定されている」例として挙げられた投稿である。
III、「最初から見た人と遅れて見始めた人とで視聴機会の差が生じる」から考える。

問8 直前に「徐々に視聴率を高めていった」とある。これは放送初期と比べて『ガンダム』を視聴する人が増えていったことを表している。「つまり最初は視聴していなかったが」に続く内容は何になるかと考えればよい。

問9 空所X直後の「たとえば」の後で、「再放送を望む署名運動」に関して具体例が挙げられているので、直前の内容

II

出典

『栄花物語』〈巻二十五 みねの月〉

解答

問1 ア―⑤ イ―② ウ―③ エ―① オ―④

問2 A―① B―⑤ C―③ D―②

問3 a―⑨ b―⑧ c―② d―⑦ e―④

問4 ③・⑦

問5 ④

問6 甲―③ 乙―① 丙―⑤

はエになるはずである。エの冒頭に「具体的に言えば」とあるので、「テレビ局に対して：呼びかけていった」と同内容となるアがエの前になる。アの冒頭に「そうしたなかで」とあるので、「アニメファン」が置かれた状況を示すイがアの前になる。残ったウがイの前になる。よって、ウ↓イ↓ア↓エの順で、⑤が正解。

問11 直前の段落に「プロデューサーの西崎義展はファンクラブに対して：宣伝活動を依頼した」「ファンの能動性は容易に送り手側の戦略に組み込まれ」とある。①・③・④はファン側からの依頼について述べているので、不適。②は「放送局などに対する」とあるので、不適。

問12 ①第一段落の、「定額制動画配信サービス」や「見逃し配信サービス」などによって、「『遅れて』視聴を始め、ブームに参入することも容易である」という内容に合致している。

⑤第十七段落の「全国各地の放送局で放映されている番組のリスト：他の地域で放送されている番組の総数と自身の地域での総数とを比較可能」に合致している。

問2 A、「えもいはず」は「言いようもないほどすばらしい」の意。この意味で④と⑤は除外できる。「運びあぐる」の

「あぐる」はガ行下二段活用動詞「あぐ」の連体形である。「上げる」意。①が適切。

B、「ただ人」は「普通の人」の意。「いかでか」は反語。「べき」は推量の助動詞「べし」の連体形でここでの意味は、「適当」である。

C、「例の」は「普通の、いつものように」の意。「心ざま」は「気だて、性質」の意。「繋がなくても逃げない」というこの牛の性格を言っている。

D、「あはれなり」は「しみじみと感動的だ、情趣がある、気の毒だ、立派だ」などの意。「めでたし」は「賞美すべきだ、すばらしい」の意。「なり」は断定の助動詞。「かし」は強意の終助詞。これらに当てはまる②が正解。

問4 ③ 第一段落二文目に「年ごろこの寺に、大きな御堂建てて、弥勒菩薩を造り据ゑたてまつりける」とあり、合致しない。この資材を運んだ牛が、のちに「牛仏」とわかった、ということ。

⑦ 第二段落の「西の京いと尊くおこなふ聖」の夢のお告げは（注5）で説明されている。「牛仏の肖像を描くよう」というお告げではない。

問5 「より」は格助詞で、起点を表したり、即時（くするやいなや）を表したりする。「越えね」の「ね」は打消の助動詞「ず」の已然形。「こそ」の結びである。選択肢の中で打消の意になっているのは④のみ。②は、内容的に「越えていない」意になっているが、「ためらう」に当たる語が本文にない。③は、「更に噂は広まった」「…ことが出来ない」に当たる語が本文にない。